

日時：令和3年5月17日 午前10時00分～正午

会場：浜松中部学園一階会議室

出席：委員長（教育部長）、委員7人（保護者代表2人、地域住民代表1人、初倉小学校長、初倉中学校長、初倉公民館長、学校教育課長）  
事務局（教育総務課長、総務係長、学校教育課指導主事1人、事務員1人）

### 1 開会（午前10時～）

### 2 あいさつ（委員長より）

委員長：前は令和元年にお邪魔させていただきましたが、改めまして今回も宜しくお願いいたします。島田市の学校再編につきましては平成27年度に「島田市立小学校及び中学校あり方検討委員会」が設置されまして、学校の適正規模や学校施設の老朽化などを考慮して、児童生徒への教育環境の充実といった観点から学校再編を検討することになりました。それを受けまして、平成29年度には島田市教育環境適正化委員会ができ、子供を最優先とした学校づくりを目指した提言書が提出されました。

本日は小中一貫校の理解を深めるために貴校に初倉地区小中学校再編方針検討委員会の方々と訪問させていただいたところです。

### 3 協議事項

#### （1）浜松中部学園の概要について（鈴木校長より）

開校にあたり校歌、愛唱歌は検討を重ね新たに作りました。校章につきましては中部中のものを使っています。小中一貫につきましては平成19年から検討が始まり、平成22年からは小中一貫協議会、平成25年に準備会が発足しました。平成27年から校舎の建設が始まり、平成28年の12月に完成しました。

編成につきましては通常学級は各学年3クラス、合わせると27学級あり、特別支援学級は自閉・情緒級が4クラス、難聴が2クラスあります。

児童生徒数については、初等部が590人、中等部が298人、合計で888人在籍しており、教職員については正規職員が55人、非常勤職員が14人在籍しています。

学区内生徒は全体の2/3、学区外の生徒は全体の1/3、全学年100人3クラスを維持しています。

#### （2）事前質問への回答（鈴木校長より）

##### 質問①

小中一体校になったことがきっかけとなり、児童生徒の家庭内で起こった悩みや課

題について、学校に寄せられた相談などがありましたら教えてください。

また、寄せられた相談を受けて、学校から各家庭に対してお願いしたことがありましたら教えてください。

回答

小中一体校になったことを理由に家庭内のトラブルの相談は特にありませんでした。ただし、部活動の表彰など、小中の取扱いを比較して指摘を受けることが多くありました。不登校への配布物を初等部の兄弟に持たせたことが、クレームとなるケースがありました。

質問②

児童生徒や保護者の人数が増えることによるメリットやデメリットを教えてください。また、デメリットに対する具体的な対策や対策の結果についても教えてください。

回答

メリットにつきましては、学校規模が大きくなることにより行事に活気が出ます。また競争意識が生まれ、結果だけでなく過程にも良い表れが出ており、多様な考えに触れ、価値観が広がります。

デメリットについては、人が多くなった分で要望も増えたため小中の違いなど、説明責任を果たすことが一層大切となりました。

休み時間でも小学生と中学生との間で約束事が違うので、教員同士の共通理解が必要になりました。

子供達にも分かりやすく伝えなくてはならず、全体的にデメリットというより課題が生まれています。

質問③

同一敷地内で小中の共用スペースが存在する場合の使用区分や利用方法、管理をどのようにしているのか教えてください。

回答

「理科室」は2つあるが専門的な実験があるため中等部が優先され、初等部の使用に制限が掛かっており、この規模で理科室2つは少ないと思います。

「体育館」については基本的に大きい方の体育館は中等部、小さい方は「初等部」となっていて、空いていれば融通を利かせ使用することができます。

「調理室、被服室」は授業回数が少ないため年間計画で調整できています。

体育館、理科室は中等部、初等部の教務主任の時間割のすり合わせを上手くする必要があります。

「大運動場」については授業では小運動場は1～2年生が使用し、3年生以上は大運動場を使用しています。昼休みと休み時間は初等部（込み合うので先生が監視をし、事故が起こらないように気を付ける。）、放課後は部活動で中等部が使います。

このため放課後に初等部が大運動場で遊ぶことはできません。  
また大運動場は大きくないので休み時間中のサッカー、野球はできません。

#### 質問④

人数が増えた場合、先生方の目がどこまで行き届くのか教えてください。また、教育を考えた場合、統合して人数を増やさない方がいいと思いますが、実際はどうでしょうか。

#### 回答

学区内で1学年100人を超えない限りは、生徒数は基本的に変わらないので、先生の人数も急激な変化はありません。100人を割ったときに学区外から受入をするようにしています。また小学生にとっては、教科により担当の先生が変わったりするため、複数の教員でクラスを見ることができ、メリットの方が大きいです。

#### 質問⑤

学校から遠い家はどのように登校しているのか教えてください。

#### 回答

便が良いため、バス、電車といった公共交通機関を利用する人もいます。  
また入学の条件で乗用車による送迎は不可としています。  
ただし、浜松周辺の学校と比べたら学区が狭いのでほぼほぼ徒歩通学が可能であり、学区外の児童生徒はバスでの通学が多いです。

#### 質問⑥

小中学生の区分が薄れ、年上の子供が年下の子供の面倒をみる機会が減るように思えますが、実際はどうでしょうか。

#### 回答

6年生は初等部のリーダーであり、一般の小学校6年生と同様の活動が多く、運動会、一年生を迎える会、小学校だけの委員会活動もあり最上級生として活躍する場面がそろっています。  
また、コロナ禍で中止をしていますが、登校時に新入生の教室まで出向いてサポートを行っています。  
このように6年生としての位置づけは残っています。  
9年生は中等部のリーダーとして、生徒会の活動を行ったり学校全体のリーダーとして縦割り清掃をリードしたりしており、シトラスリボンの作成のために各学年を回ったのも学校全体のリーダーとしての活動でありました。

#### 質問⑦

思春期を迎える中学生が小学生に悪影響を与えないか不安です。中学生の不良グル

ープが、小学生を脅したりしていませんか。

回答

現時点では確認されていません。中学生は優しくなり、また初等部の子供たちに配慮をして生活しており、大人としてしっかりしなくてはならないという意識が育っているとと言えます。

質問⑧

小中一体校となって意識の変容を教えてください。

- ①小学生の意識の変容（中学生へのあこがれ、小学校の先生が中学になってもいる安心感など）
- ②中学生の意識の変容（小学生への思いやりや面倒見、指導など）
- ③教職員の意識の変容（9年間というスパンの捉え方や広がっていく今後の可能性や捉え方など）
- ④保護者や地域の方々の意識の変容（初めての不安な気持ちが安心や期待に変わったなど）

回答

- ①小学生は中学生がお手本、あこがれの対象になっています。中等部に上がっても初等部のときと同じ先生がいて、中等部に上がる時の心構えに繋がっています。先生からの声掛けの効果も大きいです。
- ②初等部に対する思いやり、配慮（質問7と同様）できます。小学生の良いモデルになろうという意識も高いです。
- ③発達段階に応じた支援ができ、初等部も中等部もお互いの様子を見ることが出来ます。
- ④最初は不安や期待もあったと思うのですが、その後の子供達や学校の様子を見て、今では大きな期待を抱いているのではないかと思います。

質問⑨

下記の図面の写しの提供をお願いします。

- ・各階平面図
- ・構造図
- ・設計基準強度がわかるもの

回答

浜松市教育委員会より図面等を頂きました。

（3）質疑応答

質問1：初等部で集団登校はしていますか。

回答：特に実施していなく、とにかく時間内に登校すれば良しとしています。市と

しての決まりは無く、学校の判断に任せています。

質問2：今後の可能性を教えてください。

回答：現在の5年生が卒業したら中部学園の一期生となります。

それまでは試行錯誤の連続であり具体的には分かりません。

今は人の入れ替えがあっても中部学園らしさを築くための基礎作りと思って取り組んでいます。

質問3：教員の持ち時間に関して教えてください。

回答：追加教員が配置されており、普通の小学校よりは持ち時間は少ないです。中学校はほぼ通常どおりです。

質問4：小学校の先生たちが部活動に関与していますか。

回答：浜松には小学校の部活が残っており、そちらの指導があるため中等部の部活には関与していません。

質問5：小中の人事交流が推奨されていますが、実感していることはありますか。

回答：交流研修を毎日行っているようなものであり、初等部には中等部の専門的な知識を持った先生に授業や教材のことについて聞けるという利点があります。

質問6：開校までの経緯について教えてください。

回答：平成14年に少子化対策として小学校同士の統合の検討を開始しました。（学校規模適正化）

平成19年に元城小、中部中保護者の意見交換会で小中一貫校について検討したいといった意見が地域から出てきました。その背景として東京都等で小中一貫校が始めていました。反対意見もある中、平成22年に「小中一貫を考えよう」という組織ができました。平成25年には教育委員会が主体となった開校準備検討委員会を設置し、学校名、校章、校歌を決めました。その四年後に開校しました。

質問7：教科担任制について教えてください。

回答：担当教科と時数に気を付けて取り組んでいます。低学年は高学年のように教科担任制にすると恐らく組むことが出来ません。

質問8：級外の先生について教えてください。

回答：中等部には技術家庭科の免許を持った先生がいないので、初等部の先生3人で中学の10時間を見えています。

質問9：キャリア教育の推進について一貫校の良さは何ですか。

回答：地域との連携が取れていて総合的な活動の時間で協力を得ています。一貫校としては、9年間の関わりが持て、色々なところで顔や名前を覚えてもらっています。コーディネートは主に学校が行っていますが、今後はコミュニティースクールにつなげたいと考えています。

質問10：知的学級が無いが今後はどうしていきたいですか。

回答：統合前の各小中学校に知的学級がありませんでした。しかし、知的学級が無いために中等部からは別の学校に行くことがあり、知的学級を1クラス作って欲しいといった要望が先生の中から出ています。もともと市内では本校にだけ難聴の学級があり、特徴でもあったので新たな種別を新設することは困難でありました。

質問11：小中の行事が異なる時、PTAはどうなっていますか。

回答：兄弟が初等部、中等部にいる場合はどちらかでも出ていただいています。  
会長1人、副会長5人、1～9年生の各学年代表計9人で学区内外関係なく、決まった形もありません。

追加質問①：通学費については自己負担ですか。また学校では通学手段は把握していますか。

回答：入学条件に自分で通えることとしており、スクールバスも含めて通学の支援は行っておりません。また乗用車の送迎は認めていないが、実際は近くに駐車場を借りて乗用車で送ったり、通勤途中で送ったりと様々であります。交通手段については年度初めの家庭環境調査表によって把握しています。なお学区が狭いため通学支援が必要な児童生徒はいません。